

(資料1) 令和6年度 磐田市立福田小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	○考察 ※改善策	学校関係者評価委員から
学校づくり	学校が楽しい子	学校や学校で目指そうとしている子供の姿や教育内容について知っている。 保護者 81.9%(R5) → 83.1%(R6)	B	○令和6年度は5・6年生における学年担任制の導入、教科担任制の推進、通信票の2期制やステージ制の導入等、今までと大きく変わる部分があり、都度そのねらいや目的等について、丁寧な説明や発信を心掛けてきたことが「学府や学校で目指そうとしている子供の姿や教育内容について知っている」の肯定値向上につながったと考える。  ※「学校生活が楽しい(児童)」の肯定値が向上するために、令和7年度は『「どうする?」、そして子供の「こうする!」へ』を指導の重点とする。	○福田小は、先生方が相談しやすい環境、雰囲気があるように感じている。また、子供たちのために、先生方がいろいろと献身的に取り組みされているようにも感じている。  ○社会の変化に伴って、学校にも新しいものがどんどん入ってきて、先生方も大変だろうという印象を受けている。  ○こども園の保護者から「小学校では低学年でも『〇〇実行委員』というのがあって、自分たちで決めていくんですね。しかもいろいろな子が経験しているのもいいですね。」との話があった。学校が子供の主体性や自己決定を大切にしていることが、保護者にも伝わっている。
		学校生活が楽しい。 児童 91.2%(R5) → 86.9%(R6) 保護者 95.6%(R5) → 95.3%(R6)			
心づくり	みんなが笑顔になる言動をする子	自分にはよいところがあると思う。 児童 85.3%(R5) → 81.4%(R6) 保護者 79.9%(R5) → 81.8%(R6)	B	○昨年度とだいたい同じような傾向が見られる。「自分にはよいところがあると思う」では、保護者の肯定値が向上したものの、児童の肯定値は下がっている。(同項目における教師の評価は92.6%)このことから、子供は大人が思っている以上に、自己肯定感を高められずにいるのではないかと考える。  ※令和7年度は、『自己肯定+他者理解=「自己理解」(自分も相手も好きになる)』を指導の重点とし、自分もみんなも笑顔で過ごすことのできる学校にしていくためにはどうするとよいか、子供自身が考え行動を起こすことができるような声掛けや支援をしていく。	○評価項目によっては、児童と保護者の数値結果に大きな違いがある。その理由をしっかりと検証し、来年度につなげていく必要がある。  ○学年によって雰囲気や特質に違いが見られるが、集団としてよい面はさらに伸ばし、課題となるところを改善していけるとよい。
		「いいとこ見付け」で友達のよさを見付け伝えている。 児童 80.2%(R5) → 80.6%(R6) 保護者 100.0%(R5) → 100.0%(R6)			
学びづくり	基礎・基本を身に付け、「わかった」を実感する子	学校の勉強がよく分かる。 児童 87.7%(R5) → 87.6%(R6) 保護者 82.9%(R5) → 83.1%(R6)	B	○「学校の勉強がよく分かる」において、教科担任制を実施した5・6年生においては、大きく数値が向上している。 5年生 72.7%(R5)→91.4%(R6) 6年生 88.6%(R5)→93.8%(R6) 教科担任制の推進によって、教材研究の深まりや授業改善がされた結果と考える。  ※学習面での「主体性」にはまだまだ課題があることが分かる。授業も「教える」から「自ら考える」授業への転換に努めていく。	○幼児期から学童期への橋渡しとしてのアプローチカリキュラムがあるが、今後一層の滑らかな園→小の連携が進むように、学府全体として接続の在り方について考えていきたい。  ○福田小が「チームで」「子供を真ん中に」「多面的・多角的な児童理解」といったキーワードをもとに、学校経営がされているということが、先生方や子供の姿からよく分かった。  ○教科担任制は、数値結果を見てもすばらしい成果と言えるのではないかと。
		分からないことを、進んで先生に聞いたり自分で調べたりしている。 児童 82.4%(R5) → 80.3%(R6) 保護者 71.4%(R5) → 63.6%(R6)			
体づくり	心も身体も健康な子	健康や体力を高めるめあてをもち、そのめあてに向かって取り組んでいる。 児童 85.0%(R5) → 89.1%(R6) 保護者 100.0%(R5) → 100.0%(R6)	B	○年間を通して「体育カード」を上手に活用し、子供にめあてをもたせたり具体的な取組を促したりしたため、「健康や体力を高めるめあてをもち、そのめあてに向かって取り組んでいる」の肯定値が昨年度に比べ大きく向上したと考える。  ※代表委員会での話し合いを経て、子供たちは残食の少ない学校にしようとして取り組んだ。その結果、残食の量は減少傾向にあるが、「ミニやごちゃん」を意識したバランスの良い食事については、今後も啓発が必要である。  ※全体的にはけがや病気に気を付けて生活している子供が多いが、保健室の来室児童数がとても多いという課題がある。子供たちが心も身体も健康で元気に、そしてしなやかに過ごしていくことができるよう、教員が一人一人子供と向き合うことのできる時間を創出するとともに、温かな学年・学級の雰囲気づくりに努めていく。	○参観会の授業では、「なりたい自分」や「1年間のまとめ」を発表している学年が多かったが、相手によって声が小さくなったり、伝え方が雑になったりしないように、もっと「伝えたい」という気持ちが熟成されていくとよい。  ○1年生の入学式での姿を思い浮かべると、1年生がすくすく成長したことが分かる。「相手に伝える」「発表する」といった活動や取り組みは、これからも大切にしてほしい。  ○宿題については、改めてその意義や目的を考える時機にあるのではないかと。宿題においても、「主体性を育む」「自分で学びを調整する」ことを可能にしていきたい。
		「ミニやごちゃん」を意識して食事している。 児童 82.8%(R5) → 80.8%(R6) 保護者 70.4%(R5) → 63.1%(R6)			
		けがや事故に気を付けて、安全に生活している。 児童 96.3%(R5) → 95.2%(R6) 保護者 95.4%(R5) → 95.3%(R6)			

学校関係者評価を受けてのまとめ

「学年担任制」や「教科担任制」、さらには「ステージ制」や「通信票の2期制」など、新たなチャレンジをした令和6年度だったが、それらがうまく機能し、子供たちの確かな成長や自立(自律)、学校の安定、そして教職員の働き方改革(超過勤務時間の縮減等)にもつなげていくことができた。学校の存在意義は、子供が自己実現や自立(自律)することにある。時代の要請や社会の変化に伴って、学校に求められるものが増大し、絶えずアップデートしていく必要があるが、全てやろうとするには限界もある。だからこそ、最上位目標を明確にしたうえで、目的に迫る議論や台意形成を図りながら、教育効果を最大化していくことが重要であるとする。何か変えようとするときには大きなエネルギーを必要とするし、多少の混乱を招くこともあるが、最大目標・目的が明確であれば、必ず理解を得ることができる。令和7年度も福田小は「チーム」「子供を真ん中に」「多面的・多角的な児童理解」に加え、「子供の自己決定」を大切にした学校づくりを、学校・家庭・地域連携のもと、主体的に進めていく。